

# 第52回全国高校ユネスコ研究大会 in 沖縄

去る8月2日(水)から8月5日(土)「全国高校ユネスコ研究大会」が沖縄県糸満市にて開催されました。第二次世界大戦で多くのかけがえのない命が奪われた沖縄戦のあった地に、全国各地より高校生や教員ら195名(58校)が集いました。

第52回目となる今年の大会テーマは、「『命どう宝(いのちこそたから)』の心を世界へ～私たちがCROSSする沖縄から発信しよう～」。参加者は、平和祈念資料館を見学後、「世界平和」、「国際理解・国際協力」、「地球環境」、「世界遺産」、「多文化共生」、「福祉」の6つの分科会にわかれ、ワークショップやフィールドワークを通して、それぞれのテーマについて学び、考え、討議を行いました。最終日には、各分科会の成果を発表した後、本大会の集大成である“沖縄アピール”(以下参照)を宣言し、幕を閉じました。



## 沖縄アピール 2006.8.5

私たちは、61年前、焦土と化した沖縄の地に集い、学び、そして今回の大会テーマとなっている「命どう宝」の精神と平和の尊さをさらに深く認識することができました。

今なお、世界各地には戦渦に巻き込まれたり、飢餓や病気に苦しみ、十分な教育が受けられない多くの人びとがいます。

私たちは、同じ星に住む家族として、お互いの文化を尊重し、協力してよりよい未来を創造していきたいと思いをもちます。

今大会では「世界平和」、「国際理解・国際協力」、「地球環境」、「世界遺産」、「多文化共生」、「福祉」の6つの分科会で学んだ成果を漢字一文字で表現しました。

「話」 私達が話して伝える。対話によって平和を築いていく。

「関」 知ること・考えること・行動すること。そのすべては関心を持つことから始まる。

「自」 自分の足もとを見直し、自分にできることを考え、広めていく。

「彩」 世界遺産を引き継ぎ、これからの未来を彩っていく。

「絆」 人と人のつながりに気づき、絆を育み大切にすることで共生が始まる。

「愛」 愛がなければ、福祉はできない。

私たち一人ひとりに与えられた命、その命を育ててくれた地球という命、これから出会うだろうすべての命がいまを輝くように、今世界が抱えている問題に目を向け、私たちは考え、行動していきます。

沖縄で学んだ「命どう宝」の精神をユネスコ活動をとおして各学校、地域に広め、世界へ発信していきたいと思いをもちます。

今後、地元地域に戻った参加者の自発的かつ積極的な活動に期待が持てそうです。

「全国高校ユネスコ研究大会」についてはこちら

<http://www.unesco.jp/contents/communication/highschool.html>